



札幌のごみ事情
札幌市のごみの量は、平成三年度にピークを迎え、その後、リサイクルの推進や市民のごみ減量に対する意識の高まりなどにより、平成十年度には大幅に減少しました。しかし、それ以降、特に家庭ごみの量は、ほぼ横ばい状態が続いています（左図参照）。

札幌市の埋め立て地は、あと約十六年でいっぱいになってしまいます（平成十七年度の埋め立て処理の量で試算）。新しい埋め立て地を造るには、莫大な費用が必要となり、場所の確保や環境への影響などを考えても、大変難しいのが実情です。従って、ごみを減らし、今ある埋め立て地を大

埋め立て地が不足しているため
平成十七年度のごみ処理費用は、約二百七十六億円でした。これを市民一人あたりに換算すると、約一万五千元にもなります。この莫大な経費を少しでも減らすことが必要です。

ごみ処理費用を減らすため
私たちの生活は、大量の資源を消費しごみを排出することで、環境に負担をかけています。限りある資源と豊かな環境を未来に引き継ぐためにごみを減らすことが必要です。

ごみ減量の必要性
では、ごみの量が増加していない状況なのに、どうして今、ごみを減らすことが必要なのでしょう。環境への負担を減らすため

切に使うていくことが必要です。

四つの「R」でのごみ減量

- REFUSE (リフューズ)** そのため市では、ごみの量をできる限り減らすことが必要と考え、次の四つの「R」を心掛けて、ごみの少ない社会を目指しています。
- REDUCE (リデュース)** ごみを発生源で断つ
ごみになるものは「断る・買わない・持ち込まない」
- REUSE (リユース)** ごみを減らす
無駄をなくして「ごみを出さない・作らない」
- RECYCLE (リサイクル)** 繰り返し使う
捨てる前にもう一度考えよう

再生資源に戻す
捨てる方次第で、ごみが資源に！



▲ごみ減量のキャラクター

僕たち私たちもやっています！



▲札幌市立宮の森小学校
にしのかつり
西野勝則校長

札幌市立宮の森小学校（宮の森4-6）では、長年にわたり全校児童が分担して校区内の公園を清掃するなど、地域の環境問題に取り組んでいます。その活動が認められ、平成18年度には「クリーンさっぽろ衛生推進功労者」として表彰されました。また、上級生が中心となって「宮の森小協力隊」を結成し、使用済み紙や段ボールなどの古紙、給食で飲んだ牛乳パックなどの回収を行い、リサイクルにも積極的に取り組んでいます。

同校の西野勝則校長は「子どもたちの発想でいろいろな協力隊を結成し、活動をしています。昨年は、この活動をもとに車いすを近隣の福祉施設に寄贈しました。とても喜んでいただき、子どもたちの励みになっていると思います。これからもいろいろな活動に取り組んでいこうと考えています」と話してくれました。

リサイクル豆知識

車いす1脚（5～6万円）を贈るために必要な量（350ミリリットルアルミ缶で計算。アルミ買取相場で変動します）
＝アルミ缶約3万個

問い合わせ先
ごみ減量推進課
☎（211）2928
中央清掃事務所（南区南30西8）
☎（581）1153